

1527年版

ザンクト・ガレン教理問答

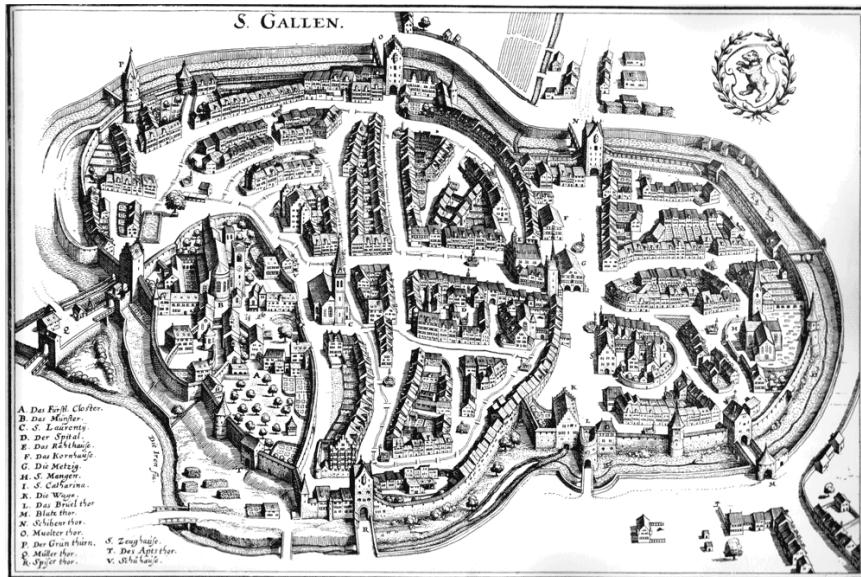
訳 大石周平



1527年版

ザンクト・ガレン教理問答

訳 大石 周平



はじめに

『ザンクト・ガレン教理問答』 (*Der St.Galler Katechismus*) は、チューリヒの宗教改革者ウルリヒ・ツヴィングリによって始められた 16 世紀スイス宗教改革の最初の実りのうちに数えられるべきものであり、『ハイデルベルク教理問答』(1563年) が現れるまでは、スイスで出版された「改革派」(時代錯誤的な呼び方をあえて用いています) 最初の問答書として、信仰教育の現場で広く用いられていました。現在、日本の教会ではほぼ全く知られず、現地スイスでも近年に至るまでふさわしい注目を注がれてこなかった本書ですが、《宗教改革 500 年記念》の 2017 年に、フランク・イエーレによる校訂版が出版されたことで改めて知られるところとなりました(Frank Jehle, »*Ain christliche Underweisung der Jugend im Glauben*«, *Der St. Galler Katechismus von 1527*, TVZ, 2017)。訳者もまた、イエーレ編著により初めてその存在を知った一人ですが、本カテキズムが示す初期福音主義改革派の「エキュメニカル(教派横断的)な視座」を知るにつれ、翻訳して多くの方々に共有し、教派を越えてご一緒に学びたい、と考えるに至りました。

1527年にスイスのチューリヒで出版され、ザンクト・ガレンで公的な権威を帯びたこのカテキズムは、ルター派と異なるツヴィングリ主義的なアクセントが特徴的なスイス宗教改革文書のひとつですが、実ははじめから、先立つフス派・ボヘミア兄弟団の教理問答(1502年ないし22年)に、かなりの部分依拠していました。つまり、後者が前者の「種本」

だったのです。また、当の兄弟団は、16世紀にルター派と接近する以前に、中世以来「異端」とされてきたヴァルド派カテキズム（1498から1502年）との対話の関係にありました。このことは、すでに19世紀にゲアハルト・フォン・ツェシュヴィッツによる研究で示されていたとおり、枠組みも内容も共通項の多い双方のカテキズムを共観し・比較すれば、誰の目にも明らかです（Gerhard von Zezschwitz, *Die Katechismen der Waldenser und Böhmisichen Brüder als Documente ihres wechselseitigen Lehraustausches: Kritische Textausgabe mit kirchen- u. literargeschichtlichen Untersuchungen*, Erlangen : Bläsing, 1863 : <https://opacplus.bsb-muenchen.de/title/BV012989117>）

のちにピエモンテのヴァルド派が、フランス語圏ジュネーヴの「改革派」陣営に合流することは知られています。しかし、ギヨーム・ファレルやジャン・カルヴァンが影響力をもつ以前に、ドイツ語圏の改革第一世代のツヴィングリやヨアヒム・ヴァディアンのもとでも、ボヘミア兄弟団に仲介されて間接的にもヴァルド派の教理が吟味され、一定程度の相違点とたくさん的一致点と共に確認する作業が行われていた、ということになります（ヴァディアンとは、ツヴィングリの学生時代の恩師・鬪病時の医師にして生涯の友であった人文主義者で、ザンクト・ガレンの市長になった人物です）。相違箇所には、聖礼典やマリア崇拜、司教制度に関する16世紀の特別な関心が現れることになりますが、その他の点では、基本的な一致が示され興味深いところです。

さて、ルターの教えがフス派に等しいとみなされ断罪された1520年代に、ツヴィングリ神学に影響を受けたカテキズムがこれほど大胆にフス派の教理と共通点を示し、間接的には

ヴァルド派とも繋がっていたことは、今にいう「リפורームド・エキュメニズム」の最初の多様性を示すものです。宗教改革は、歴史的脈絡なしに始まったことではありませんでした。むしろ、「先駆者」の教えを継ぐ教団と交わるなかで、ときに緊張も伴いながらも一貫して聖書主義的な対話が、信仰の基盤を形成するレベルで深くなされていました。

邦訳にあたっては、ザンクト・ガレン教理問答初版の写真版をデスクトップに置いて底本としました（オンライン公開されています）。原文は当時のスイス・ドイツ語であり、訳者の知識不足による誤訳を恐れます。お気づきの場合はご教授ください。定本に加え、オンライン公開されたツェシュヴィッツのドイツ語批判版による上述の先駆的なカテキズムふたつを並べ、さらに手元には、イエーレの本も置いてすべての注釈を参照しました。結果として、3つの教理問答を同時に日本語にする作業が必要でした。本冊子では、「ザンクト・ガレン教理問答」に集中し、大きな相違点がある場合のみ注記するに留めます。関心のある方は、巻末にまとめる注や解説を参照してください（未完成）。なお、本試訳は、はじめ日本キリスト教会府中河原教会の祈祷会における聖書理解の手引きとして用意されたものであり、学問的な歴史研究・文献研究の手順においては不十分なものであることをご承知おきください。それでもご一緒に読んでくださる方々とともに、信仰の遺産に触れて心熱くされる喜びを、共有させていただければと考えています。

2022年1月1日・ツヴァイングリ538回目の誕生日に
　　訳者

Alte Christliche Vnderweisung der Jugend

im Glauben/ gegründt in der
heiligen geschrift/ fragens wÿß.

Luce am. xviii. spricht Christus.
Lond die Kinder zu mir kómen vnd werend jnê
nit/deñ sôlicher ist das rich Gottes.

Zün Ephesern am. vi. Capitel
spricht Paulus.

Ir Väitter rayzend ürwere Kinder nit zu Zorn
sonder erziehend sy vff/jn der zucht
vnd vermanung an den
Herrn.

306
P. 100. R.
C.
1611. 1612.

わかものに向けた キリストの教えの手引き

信仰のうちに、聖書に基づき、問答の形式で

ルカ福音書の18章〔16節〕でキリストは言われる。

「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。」

エフェソ書の6章〔4節〕でパウロは言う。

「父親たち、子供たちを怒らせてはなりません。
戒めと諭しのうちに、育てなさい
主にあって」



『ザンクト・ガレン教理問答』

チューリヒ・フロシャワー出版、1527年初版

(2021年12月31日訳了 大石周平)



〔第一部〕



「教師らや司牧者が問う：

1 きみは 何ものか。

わかものは 答える：

分別ある神の一被造物であり、死すべきものです。

2 神はなぜきみを造られたのか。

答 わたしが あの方を知り、愛をいだくべきであるため、そうして 幸いな者となるためです。

3 きみの幸いは、何によって立つのか。

答 主イエスに。神の御子であられるこの方の（土台の）上に、みことばをとおして、わたしたちは建てあげられました、根本たる三徳に生きる者となるように。

4 それらはいずれのものか。

答 信、愛、そして希望。

5 (聖句をもって) 証拠づけなさい。

答 聖パウロは言います。

「イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません」(コリー3 (:11))

一方で諸徳については言います。

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。」(同13 (:13))

6 きみの幸いの土台たる第一の徳とはいざれのものか。

答 信頼／信仰です。

7 [聖句をもって]証拠づけなさい。

答 聖パウロは言っています。

「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神が存在しておられること、また、神はご自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならぬからです。』(ヘブ11 (:6))

8 新約聖書からの信仰に関する記述には何があるか。

答 聖パウロは言います。

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」(ヘブ11 (:1))

9 きみはいずれの信〔信条〕に 連なるものか。

答 普遍（＝公同）のキリスト教信仰に。

10 それはいずれのものか。

答 『わたしは、天地の造り主、全能の父なる神を信じます。わたしは、そのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。主は聖靈によってやどり、処女マリアから生まれ、ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け、 十字架につけられ、死んで葬られ、陰府（よみ）にくだり、三日目に死者のうちから復活し、 天に昇って、全能の父なる神の右に座しておられます。 そこから来て、生きている者と死んでいる者とを審（さば）かれます。わたしは、聖靈を信じます。 聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだの復活、永遠のいのちを信じます。』

11 信仰にはどのような区別があるか。

答 あらゆる人の心を知りたもう神の御前では、真摯に、唯だ神にのみ信頼をよせる信仰は、明瞭なものです。しかし、人間の前では、生ける信仰と死せるものとがあります。それら（の区別）は、人間的に概念を把握したうえでも、人の心には見えないものです。

12 死せる信仰とは何か。

答 恐れにもとづく信仰です。すなわち、主なる神は存在するとみなす信仰であり、神から離れて主を思いますが、主なる神を信じません。

13 生ける信仰とは何か。

答 父なる神、子なる神、そして聖靈なる神を、神のみことばに保たれたあらゆる事柄への疑いなき確信をもって、信じることです。

14 主なる神を信じるとは何か。

答 神を認識すること。そして そのみことばのすべてに 徒順であり、すべてにまさって 神を愛すること。そしてみことばを受けて行い、かつ信頼を完全に神に置くことです。

15 人が神を信じているという証は 何にあるか。

答 その人が信仰の実りをもたらすこと、そして愛をもって働くことに。まさに、十戒にも包括されているとおりに。

16 きみは十戒を知っているか。

答 はい。

17 どのように。 (以下申命5:1,6-10、6:4-5、レビ19:18 参照)

答 神がモーセをとおして、イスラエルの子らに語っておられます。

「聞け、イスラエルよ：私は主、あなたの神。あなたには、私のほかに、別の神々があるはずはない。あなたはいかなる像も造るはずはない／上は天におけるもの／下は地にあるもの／また地の下の水の中にあるものの／いかなる似姿も。それらを崇めたり／それらに仕えたりするはずはない。なぜなら、私は主、あなたの神だからである：ひとりの烈しくねたむ者／私を憎む者には／父らの罪業（つみ）を子らにまで、三代／四代にまで介入して〔報いを〕求める：そして私を愛し、私の戒めを守る者には／幾千代にも及ぶ慈しみを果たす。あなたの主なる神を愛しなさい、あなたの魂を尽くし／心を尽くし／また力を尽くして。／そして隣人を あなた自身のように愛しなさい。」

II.

「あなたの主なる神の名を みだりに扱ってはならない。御名をみだりに扱う者を、神は罰せずにおかれないからである。」

III.

「安息日（シャヴァット）を覚えよ、あなたが聖とするものと。あなたは六日働いて、あなたのすべての仕事を果たすが、七日目は、あなたの主なる神の安息日である。あなたはいかなる仕事もするはずがない。あなたも、あなたの息子もあなたの娘も、あな

たの僕も僕女も、あなたの家畜も、あなたの町の門のうちにいる異邦人も。神は六日のうちに天と地を創られ、海とすべてのものはそこにある。そして七日目に休まれた、そのゆえに神は、このシャヴァットを祝福し、聖なるものとされたのである。」

III.

「あなたは、あなたの父と母に栄えを帰すはずだ、あなたが長い時を生き、主なる神があなたに与えてくださる土地で十全に いられるように。』

IV.

「あなたは殺すはずがない。」

V.

「あなたは姦淫するはずがない。」

VI.

「あなたは盗むはずがない。」

VII.

「あなたは隣人に対して偽りの証言を語るはずがない。」

IX.

「あなたはあなたの隣人の家を貪るはずがない。」

X.

「あなたは隣人の妻を欲するはずがない。その僕もその僕女も、牛も驢馬も、隣人が所有するすべてのものも。」

18 これらの戒めは、何にかかっているか。

答 人が神を、すべての事柄について愛することに。

19 人が神をすべての事柄について愛していることは、どのように認識されるか。

答 彼がまた、愛すべきと定められた自分の隣人を、愛するときに。

20 隣人愛とは何か。 (以下マタイ7:12、ルカ6:31)

答 隣人に対して、自分に対するように、良くすることです。そして、自分が望まないことを、隣人もしないでよいと認めることです。

21 神の戒めはどこに帰結しますか。

答 愛のうちに。

22 愛とは何か。

(以下マタイ7:12他、1コリ13:4-7、1ヨハネ4:16参照)

答 愛は、神の賜物です。自分が欲するものごとを、隣人のために欲し、またそれを喜んで与えることです。

これについては、パウロもまた語ります。

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ば

ず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」

それゆえ聖ヨハネは言います。

「神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。」

23 何によって私たちはまず、この愛にむかって駆り立てられるのか。

答 主イエスによって。この方は私たちのための愛のゆえに、（ご自身を）死にむけて与えられました。愛のゆえに、天よりくだり私たちの弱さを、そして罪を、ご自身に引き受けてくださったのです、そうして私たちを、私たちの諸々の罪から贖うために。

この方はまた 弟子たちに告げられました。

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るようになる。』

(ヨハネ13 (:34以下))

24 何によって キリストは 人間にとての救いの根拠であるのか。

答 キリストにある (in Christo) 信仰によって。

25 キリストにある信仰とは何か。

答 それは、あの方の死にあって、あの方がその者たちのために死なれた、罪びとらの赦しに信頼することです。

26 人がキリストにあって 信じていることは、どこで認識されるか。

答 その者があの方を愛しているかどうかによって。そしてあの方を愛する者が、その戒めを守っているかどうかによって。

あの方ご自身が言われます。

「あなた方は、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。」しかし、「わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。」（ヨハネ14:15, 24）

27 それをもってあの方がモーセの戒めを解明し、完全なものとして示された、キリストの戒めは、いくつあるか。

答 6つです。

第一に、その兄弟に腹を立てないこと。

次に、隣人の妻を欲求して見ないこと。

第三に、姦通の理由もなく妻を離縁しないこと。

第四に、いっさい不要に誓わないこと。

第五に、悪に悪を報いないこと。

第六に、愛こそを敵に抱き、そしてあなたに邪（よこしま）を果たす者に、幸いを果たすこと。

（マタイ5（:21-48））

28 全てにおいて、キリスト者の最大の業はいずれのものか。

答 あの方を信じることです。

29 [聖句をもって] 証拠づけなさい。

答 キリストが言われます。 「人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。」つまり、「私を信じなければ、永遠の命をもたない。」すなわち、「私を信じる者は、永遠の命を得ている」と。 (ヨハネ6 (:53, 47))

〔第二部〕

希望の部



30 希望とは何か。

答 希望とはひとつの賜物であり、それによって信仰者は、すべての被造物をおいて、ただひとりの神に自らを委ね、この方にはすべてにおいて、みことばのうちに約束されたとおりだと確認します。

31 いかに君は、かくたるを（みことばをもって）示すのか。

答 預言者ダビデによって。すなわち彼は語っています。

「主よ、私はあなたに向かって叫び、言います

『あなたはわが確信（逃れ場）』」と。

また、他の箇所では、

「あなたの僕を、みことばのままに、思い出してください。あなたはそれを待ち望むようにされたのです。これこそが、わが悲惨の中のわが慰めです。あなたの仰せが私を生かすのです。」

（詩篇141（142:6、119:49以下））

3 2 希望は実際には、いかなることに関わるか。

答 現前としておらず、行く末にあることがらに。

すなわちパウロが告げるとおり、

「目の前にある望みは、希望ではありません」。

(ローマ8 (:24))

3 3 一被造物に希望をおいても良いものか。

答 いいえ。というのも、そのような希望によっては、むしろまったく信頼の神は、遠ざけられてしまいます。まるで、あの方お一人では私たちを助けることができず、ことごとくあの方の永遠のみことばに向かい、ただあの方のみを崇め・あの方にのみ仕えるべきだというのでは、十分ではないかのように。そして偽善者は希望を腐らせてしまいます。そこでダビデは言うのです。

「幸いなるかな、ヤコブの神を助けと頼み、自らの神なる主に絶えず希望をおく者、天と地と海と、その中にあるすべてのものを造られた方を」（詩篇145（146:5以下））。

その信は永遠に続きます。同じく知者も言うとおりに。

「主の御名は力の塔。この方へと義なる者は走り寄り、高くあげられる」。（箴言18 (:10) ）

3 4 そのうちに希望が係留する、キリストの主たる約束を挙げなさい。

答 八つの点をお示しします。

幸福（さいわい）なるかな、靈に貧しい者らは

なぜなら彼らには 天国がある。

幸福なるかな、柔和な者らは

なぜなら彼らは 地を受け継ぐ。

幸福なるかな、悲しみを負う者らは

なぜなら彼らは 慰められる。

幸福なるかな、義に飢え渴いている者らは

なぜなら彼らは 満たされる。

幸福なるかな、憐れみ深い者らは

なぜなら彼らは 憐れみを得る。

幸福なるかな、ひとつの清い心をもつ者らは

なぜなら彼らは 神を見る。

幸福なるかな、平和に生きる者らは

なぜなら彼らは 神の子と呼ばれる。

幸福なるかな、義のために迫害を負う者らは

なぜなら彼らには 天国がある。

幸福なるかな、あなた方が 私のために人々に辱められ、迫害され、あなた方へのあらゆる悪口を負うならば。

喜びを抱き、また歓喜しなさい。

あなた方には天において、十分な報いがある。

35 永遠の生命とは何か。

答 それは、眞の神の認識です。すなわち神がイエス・キリストを遣わされたと知ることです。

3 6 永遠の生命には、いくとおりがあるか。

答 ふたとおりです。ひとつには、（今）ここに恵みの時に、信じる者らが靈において、信仰によって得る、私たちの主イエスの交わりのうちにあること。一方の命とは、将来の栄光です。

3 7 君はまた、聖靈を信じるか。

答 はい、私は信じます。

3 8 聖靈とは何か。

答 父と子なる神から送られる、主なる神です。

3 9 父なる神とは何か。

答 神性において等しいひとりの御子をいだく、主なる神です。

4 0 子なる神とは何か。

答 ひとりの永遠なる父をいだく、主なる神です。

4 1 では君には三柱の神々があるのか。

答 いいえ。わたしに三柱の神々などありません。

4 2 だが君が、その三者を挙げたのではなかったか。

答 その人格にしたがえばそのとおりです。しかし神の本質にしたって、私はお一人の神がいますことを信じます。讃えとあらゆる最高の誉れをお受けになる、唯一の方です。

第三部

神の栄光を崇めること



4 3 どのように君は、あの方を崇めるのか。

答 この靈をもって、この心をもって、口をもって、そして諸々のわざをもって。

4 4 心をもってとは、どのように。

答 信をもって、愛と希望をもって、そして善をもって求めるのです。

4 5 口をもってとは、どのように。

答 告白と御名を呼ぶことをもって
御力と知恵と、義と真との告知をもって
あの方からの助けと恵みを求めるることをもって
ただあの方のみを讃美し、ほめ祈ることをもって。

4 6 諸々のわざをもってとは、どのように。

答 あの方の諸々の戒めを果たすことをもって。
断食し、膝をかがめ、顔を伏せる誠実さをもって。
主イエスの御名において、
貧しい者らに与えること、
そして主に属する他者に奉仕することをもって。

4 7 君が崇めるその同じ神を、君はどのように呼ぶか。

答 わが恵み深き父と。

4 8 どのようにして、君はその方に祈るのか。

答 主イエスが「君たちはこのように祈るべきだ」

と言って、教えてくださったように：

「我らの父、天にまします方よ。

御名は聖くあれかし。

御国を来らせたまえ。

御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ。

我らの罪を赦したまえ、我らに罪を犯すものを我
らが赦すごとく。

我らを試みにあわせず 悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは限りなく汝のものなればなり。

アーメン。」

第四部

偶像崇拜について



49 君は、他の多くの被造物をも、主なる神と崇めるか。

答 いいえ。

50 なぜか。

答 なんとなれば、神がそれを強く禁じられたからです。こう言われました。

「君はそれらを拝みも崇めもしないように。あなたの主なる神を崇め、あの方にのみ仕えるように」。

(申命6 (:13以下からの自由な要約))

51 何のうちに、キリスト者らのもとで惑わしとなってい
るあらゆる偽りが生じるのか。

答 3とおりの事柄のうちに。

偶像崇拜のうちに。誤って案出された靈的職制 (=聖職階級) のうちに。死せる欲望のうちに。

この三とおりの事柄のうちに、あらゆる迷いが生じます。そこでは初めから邪である悪魔もまた、自らのあらゆる誘惑の道を見出します。

5 2 偶像崇拜とは何か。

答 それは、ただ神のみに聞かれるべき讃れと嘆願を、見えるものであれ、見えないものであれ、分別あるものであれ、無分別のものであれ、靈的なものであれ、肉的なものであれ、被造物に行うことです。内的にであれ、外的にであれ。

内的にとは、信や愛や虚しい希望をもって、あるいは靈をもって欲求すること。すなわち、恐れや内なる惑いをもって、あるいは自意識をもって。

外的には、口をもって、あるいは業をもって、かの〔虚しい〕希望のうちに、何か自分に肉的ないし靈的なものを欲することです。

5 3 君は、処女(おとめ)マリアやその他の聖人たちを信じるか。

答 いいえ、私はそれらを信じません。

5 4 なぜか。

答 なんとなれば、それらは神でも創造者でも救済者でも幸いの授与者でもなく、贖われ、聖とされ、造られた者だからです。しかし、わたしは、彼女たちについて信じるところがあります。

55 君は、処女マリアについて、何を信じるのか。

答 彼女が神から選ばれ、溢れる恵みを受けて、女たちのもとで祝福されたことを。そして、イエス・キリストの肢体（からだ）という彼女の実りが祝福されたことを。また、彼女がその出産以前にも、出産のさ中にも、出産の後にも清くあった、すなわち謙った仕えびとにして、祝福された処女（おとめ）であり、その信仰的な意志のゆえに、私たちの主イエス・キリストのひとりの真実な母であることを。そして、彼女が永遠の喜びのうちにある遺産を、確かに所有していることを。また、これらすべてのことと彼女が至ったのは、彼女の愛する息子、私たちの主イエス・キリストの生と死との共同性（まじわり）における、神の恵みによることを。

この方にあって、またこの方を通して、神は彼女に大いなることを果たされたのです。それゆえ、私たちが認識し、彼女について知るべきことは、神が、選び抜かれた手製の器としての彼女にあって、また彼女を通して働いておられたということです。それゆえに、彼女は誉れと讃えをもって記念されますが、感謝の言葉は変わらず神に向けられなければなりません。

他の福者たちも同様です。私たちは、これらのものたちに、ただ安っぽく、理由を欠いた愛を抱いています。そのために、彼らはキリストの肢体の高貴な一員となったのです。

5 6 君は、聖人たちについて今後も変わらず何を保つか。

答 彼らが神の恵みによって、私たちの主イエスとの交わりへと、選び出されたことを。そして、聖霊の賜物を通してそのように至ったのですが、彼らがキリストにあって愛され、かつその血潮をもって清められた、聖なる者たちであったことを。また、彼らが信仰において生きたことを。そして、全てのものにまさって、神に愛を絶えず抱き、また、その隣人らを自分自身としたことを。そして、神のみを崇め、また、この方のみに仕えたことを。そして、ついには迫害の上の共なる死をもって死にさえもしたことを。ついに彼らが、人々に強制されて世を去ったことを。神の御言葉のゆえに拷問を苦しみ、神の栄光を求めたことを。偶像崇拜をしてあざける者、偽預言者、世を愛する者たちによって死に至らしめられたことを。

5 7 処女マリアやその他の聖人を敬うことはふさわしいか。

答 はい、彼女らに属する栄誉とともに。

5 8 彼女らに属する栄誉とは、いずれのものか。

答 すなわち、神の御力によって彼女らが果たした善きことにおいて、彼女らに従うこと、そして賛えることです。

59 いずれの点において人は彼女らに従順であるべきか。

答 彼女らが語り、かつ神の書に書かれた点に、とくに処女マリアが次のように言う点において。

「わたしの息子が言うことはすべて、これを果たしなさい」。〔ヨハネ2：5〕

60 いずれの点において、人は彼女らに従うべきなのか。

答 彼女らが徳に生きる点において。そこにあって、生けるひとつの信仰をもって、キリストに、彼女らは従いました。また、本物の愛をもって。その愛は、永遠の生命の希望のために、働きまた耐えました、世のあなどりとその強欲を被る死に至るまで。

61 いずれの栄誉を伴う聖人崇拝はふさわしくないか。

答 上述のとおり、神と子羊イエスにのみふさわしい栄誉をともなったものです。

聖人を崇めること、恵みと助けと執りなしや善の賜物ないし悪からの守りを彼女らから請い求めることもやはり、ふさわしくありません。そのいずれに関しても、彼らのうちに希望を置かないように。処女マリアについても（偽善者たちがするよう）
に）、唯一の希望、執りなし手、この上なく慈しみ深き母と呼ばないように。うめきを彼女に向けて、委ねるべきではありません。

したがって、外面向的な栄誉であっても、捧げること

はふさわしくありません。さらに、祝祭を祝うこと、犠牲（のミサ）をささげること、奉仕すること、祈願すること、彼女らにささげ物をすること、断食することも、彼女らの諸々の名によって、誓ったり、偽証すること、巡礼することも、あるいは教会を立てることも（ふさわしくないのです）。

62 しかし、わたしたちの主イエスの像を拝み、崇めることは、ふさわしいのではないか。

答 いいえ。なぜなら主なる神は言われるのです。
「あなたはいかなる刻まれた像も、それに似たものも作ってはならない。あなたはそれらを崇めたり、それらに誉れを帰してはならない。わたしは主、あなたの神」と。（出エジプト20（：4-5））

キリストの御肢体（からだ）の聖礼典について

63 それでは、かの肉と血の聖礼典を主イエスと拝み、崇めることは、やはり、なおふさわしいか。

答 いいえ。なぜなら、そこには（血肉という）自立的・自然的な本性も、あるいは人格的な本性も伴っていないからです。そのようにではなく、あの方は、キリスト教信仰の告白のうちに、そして聖書によれば、天において、父の右に・その栄光のうちにいます。そして、最後の審判に至るまで、この世に降られることはないのです。また、なぜあの方を聖礼典において崇めてはならないかといえ

ば、それは、あの方（ご自身）が厳しく、真剣に、マタイによる福音書24章（23—27節）でこう言って禁じておられたからです。

「そのとき、『見よ、まさにここにキリストがいる、あるいはそこに』と言う者がいても、あなたがたは信じるべきではない。というのも、偽のキリストや偽預言者が現れて、大きなしるしや不思議な業を行い、ついにはできれば、選ばれた者たちをも過ちのうちに惑わそうとするからである。あなたがたには前もって言った。『見よ、あの方が荒れ野にいる』と言っても、出て行くのではない。『見よ、あの方が納戸にいる』と言っても、信じるのではない。というのも、稻妻が出るところから出て、やがて輝き降りるように、人の子もまたやがて将来しますからである。」

64 それでは、この適切な聖礼典にあたっては、何をなすことがふさわしいか。

答 信じることこそふさわしいのです、パンと杯が、主イエスのご意志にかない、制定されたとおりに、そのキリスト諸教会によって、眞実な仕え人たちをとおして、主の祈りとみことばをもって、キリストがわたしたちのために御体をお与えくださいり、またその御血をもってわたしたちのために一度(ひとたび)きよめたもうたことが証され、公示されて、しかるべきさし出されるところ

では。そこではまた、わたしたち皆がキリストの死のうちに、信頼をいだくものであり、碎かれた肉と注がれた血によるまことの交わり（共同性）であるという意味もあります。パウロが言うとおりです（コリント10（：16-17））。

「わたしたちが碎いている感謝のパン、それはキリストの体の交わりではないか。そしてわたしたちがうらやむ熱望の杯、これは、讃美と感謝をもって言うが、キリストの血の交わりではないか。いったい私たちは大勢でも、ひとつのパン、そしてひとつの体。わたしたちはひとつのパンを分かち合っているのである……。」

そして、外的な実体をともなう事物は、靈的なものに奉仕し、用いられるべきものですが、それは聖礼典においては、パンと杯です。それらは、わたしたちがキリストを飲み食いするために差し出されました。そして、その碎かれた身体と注がれた血とを厳かに記念し続けるために。また、罪の赦しを私たちのために成し遂げてくださったというまさにその死の告知を、再臨なさるときまで保つために（コリント11（：26））。また、その記念をもって、主イエスの交わりを、自由あふれる確信のうちに、刷新するために。また希望のうちに、すべての信仰者とともに、自らを強め、キリスト教的生活に骨折るにあたっての力

を得るために。

そうして（わたしたちは、）実体としては天の父の右にいます主イエス・キリストにむかって心を高くあげつつ、記念することをとおして、讃れと讃美と感謝へと目覚め、突き動かされていくのですが、それは、あの方の靈によって、そして恵みをもって、ひとつの聖なる神殿のうちにあるときに、すべての信じる者らの中で現実なのです。そして今やそこから、天の御国が、信じる者らの中に、つまりはその死すべき肉の中に存在することになるでしょう。徵と奇跡をもって弟子たちを遣わし、増し加え、訓練し、世の終わりまで保たれる、かの慰め主によって。というのも、はじめからそうであったように、主なる神は、その高き御名にあって、ご自身がお造りになった人間に、召しと約束と、見える徵の合図とをもって、そして後には律法を打ち開くことをもって、（御旨を）果たされるからです（ヨハネ6 [多数箇所]）。それからまた、ご自身の時いたり、世に来られたイエス・キリストにむかって、父なる神は刻印して「これはわたしの愛する子、これに聞くように」（マタイ3（：6および17：5））と、明るい声で証言なさいました。この方がやがて来（きた）ることは、預言者らの靈において示されていました。これによって、救いや恵みのあらゆる意味が、幻の象徴をともなって開かれ、解

明されました。なぜならあの方こそ光であり、道であり、真理であり、命であったからです（ヨハネ14〔：6〕）。

この理解は、あの方がすべての事を成就されたのちに明らかになるものです。そして神と人との間の和解は、そのまことの身体にあって刻印され、天に受け入れられます。（あの方は、神の聖なる預言者ら全員の口をとおして神がお語りになった、世に関するすべての事柄が果たされるまで、必ず天にとどまるこことなっています〔使徒3〔：21〕〕。）キリストの昇天後は、慰め主、すなわち聖靈なる神が世に送られました。驚くべき燃える炎の証しと諸言語の賜物をともなって。聖靈は、キリストが天に召されていなかった場合には、わたしたちに送られることはありませんでした。この靈は永遠に私たちのもとにとどまり、あらゆる真理を教え（ヨハネ14〔：16～17〕）、わたしたちに勝利を確信させ、わたしたちを堅固にします。この靈が吹きつける者らは神の子です（ローマ8〔：14〕）。このようにして、キリストは実際に死なれ、しかも実際に甦り、天にまします神の右に坐しておられますが、靈こそ恵みの担保（＝保証）であり、現に実際上、信仰者みなの心の内にあって、統治しておられる方です。パウロはこのお方を、キリストの靈、キリストご自身とも呼んでいます。それゆえ

に、その神性によってキリストと共にある靈もまた、ひとりの眞の神であられるのです。したがって、〔眞の〕神であり人であられるキリストを、身体的に地上に求めたり、告白したり、信じることさえすべきではありません。その人性については、神の子キリストにあって、地上で完全なものとされましたかが、キリストが罪を負われたかの低いところから高められ、召しあげられました。キリストをとおして、わたしたちをこの世から区別し、父が子の名において呼ぶその靈にあって、あらゆる慰め、あらゆる教示、そしてあらゆる助けを約束してくださいました。それゆえに、教会のまつたき豊かさは、靈の生ける豊かさと異ならず、初めに父が開示してくださいましたように、後には子が、そしてついには聖靈が開いてくださるのです。したがって、父なる神、子なる神、聖靈なる神の王国についての私たちの信にもかかわらず、私たちはひとつの神性にして一つの本性を信じるのです。しかし、キリストは、その人性にしたがえば、神とも靈とも違い、眞の人間です。神性を伴うひとりの人格は、わたしたちから去っていかれました。再臨は、神としてと同時に人として〔果たすものと〕方向付けられます。それは、生きている者においてと同様、死者においても、認められることになります（Iテサ4（：16以下／原本ではIIテサと誤って記されている））。

第五部

誤って案出された靈性と 偽りの希望の数々について



65 惑わす人々は、どのようにして、誤って案出された靈性に迷い込むのか。

答 正しい靈性を知らないときに。

66 真実の靈性とは何か。

答 信、愛、望の正しい土台をもった真実において、わたしたちの主イエスに従う実践をもって、保たれるとき（の靈性です）。

67 誤った兄弟団、処女理解、司祭職とは何か。

答 表面的に飾って、古い風習や慣習、案出された人間の教えの上に単独で設立されるとき、あるいは、眞の神に土台をもたない独りよがりな望みに基づく決定から作り上げられるとき（のもの）。

概して、誤謬であり、また惑わしであるものは、より簡明に書かれた教義や教理からは、確定することができません。むしろそれらは、神の教えに反対するものになります。

欺瞞的な希望について

68 いかにして、惑わされた者らは、欺瞞的な希望のうちに、誤りを犯してしまうのか。

答 同じく、真の希望がそこに、そのうちに存在する、信仰の正しい認識をもっていないときに。その認識があるところで、み恵みと神の助け、そして永遠の栄光が、しかるべき与えられるのです。

69 正しい希望は、どこに、どなたのうちにあるか。

答 神のうちに、威をもって力強く。
キリストのうちに、その功（いさお）を伴って。
そして聖霊の賜物のうちに、実践的に。

信仰のうちに、根本的に。信仰の義のうちに、誠実に。行いのうちに、実証的に。徴をともない礼拝奉仕をする教会において、定期的に。神の御言葉において、明示的に。二つの聖礼典において、（聖書に）書かれたとおりに。

70 どこに、最高の希望があるか。

答 神の契約と盟約のうちに。の方は、御子の血によって、私たちと共にいて、それを果たしてくださいました。

71 何によって、その希望は与えられるのか。すなわち、神の現在する恵み、イエス・キリストの御わざ、つまりその義のうちに、私たちを永遠の栄光にふさわしいものとする御わざの保証となる希望は。

答 神の契約における神の約束と信仰の契りによって。そのうちに、わたしたちは固く保たれます、終わりに至るまで。

72 それでは、誤った者たちは、上にのべた希望を、他のどこに依拠するのか。

答 ある者は、神の恵みによってその悪い人生を改善することにかえて、邪（よこしま）に（依拠して希望をいだきます）。ある者は、愛にかえて、死せる信仰のうちに、（また）ある者は、最期の瞬間にサクラメントを受けることに（希望をいだきます）。ある者は、信の真と正しい悔い改めにかえて、表面的に莊厳な神殿（=教会）や、サクラメントを受けた頻度に、（また）断食、祈る行為、貧者へのほどこしに（依拠して希望をいだきます）。ある者は、神のみことばへの従順にかえて、教皇とローマ教会への従順に。ある者は、聖人たちの守護

とその取りなしに、また聖地に向かう巡礼に。ある者は、口ザリオ（の祈り）を唱えることに、また冗長に創作された無益な祈りに。ある者は、作られた像による浄めのうちに。ある者は、豪華な飾りや犠牲を含む、教会や聖職者への寄贈（の行為）に。ある者は、托鉢に、そして誤りと偽善を覆い隠して、彼らに施しを行う者らに幸運や成功があるかのようにいう靈性に。ある者は、自己を認識し、神の御前に値高いところの信による義を知って、聖靈の注ぎによって新しくされることにかえて、善いわざに。すなわち、なにより聖書のいたるところで学ぶことができるとおり、虚偽による諸々の希望は数えられないほどです。

第六部

死せる欲望について



73 信じる者を襲う死せる欲望のうち、最も多く襲うものは何か。

答 憤りです。それについては、みことばの仕え人ないし剣の奉仕者である教会的な指導者たちも抱きます。

73 みことばの仕え人が、いかにして苛立つか。

答 つまり、それら（の憤り）は吹き入れられるのです、いさかいや不和・不純・むさぼり・傲慢・侮り・支配欲に傾かせる、独りよがりの教えのうちに。キリストの謙卑と聖書の素朴への求めに反することごとく、すなわち栄誉、慈善、肩書き、虚飾にむかっていくうちに。また確かに、（憤りが自ら）羊の毛皮をまといながら狼を告発するこ

とについて、人は用心し、そのような生き方に追従しないようにすべきです。というのもパウロが告げるのです。真理に背を向け、利得を求めることを神が受け入れるはずだとするのは誤りだと（イテモ6（：5？【原本に17節と印刷されているが誤りか】）。したがって、イエスを口では告白し、かつもっぱらあの方に連なり歩んでいるのであっても、苛立つことは、すべて、誤った靈によるのです。愛にも信にも関わりなく、あの方について教え、説き明かし、あらゆる行いと骨折りをしたとしても。時による善（すなわちその時々の人の目にだけ妥当するようなこの世的な善）を（神の善よりも良いものとして）志向するのでは、何ものをも慰め立て上げはしません。然り、キリストの教えとまことの告白の真理は、憐れみへと向かわせます。自らの益を求めて、それらに逆らうことを、キリストはいつでも警告しておられました（マタイ21（：12以下））。

75 剣の奉仕者が、いかにして苛立つか。

答 つまり、悪をひたすら妨げることをせず、善に向かわないまま・腐敗した悪人を罰しないまま自らのとりこになり、その真理判断は腐敗してしまって、共同体の誠実な必要のためよりも個人的な必要のために出資するなかで（苛立つのです）。そうして、そのようなことが積み重なると

ころでは、信仰者たちは侵害され、離反へと驅り立てられます。だからこそ、官憲が下に置かれた人々の幸福と切に願うことを受け止めるところには、神の慈しみと恵みがあります。そこに伴うのは、悪を罰し、善に向かって前進すること、神を恐れて、その御言葉を愛することです。

同じように、人は、率先して教えを実践するための正しい感覚と理解をもち、命と真理に仕える真実の奉仕者らには従うべきです。これについて、聖パウロは言います。

「……あなたがたと同じように、わたしたちを模範として歩んでいる人々に目を向けなさい」
(フィリピ3 (:17))。

第三に、偶像崇拜と死せる欲望の原因を呪い、社会と社会的な事柄に従順であるように身を処すのです。預言者をとおして、また默示録における聖ヨハネをとおして神が語られてたとおりに。

「彼女（バビロン）から離れ去れ」（イザ48:20、エレ51:6、黙18:4）と。

第四に、真実にまた真摯に、神の栄光を示すよう身を処すのです。これについては、ダビデが言います。

「聖なる方と共にあり、あなたは聖となる」と
(詩18 (:26参照))。

第七部

キリストを信じる者らの 共同性に入ることについて



76 何によって、人は信じる者らの一致に入るのか。

答 へり下りと従順によって。

またキリスト者の秩序（規則）に従うことよって。

また、その教理・訓戒・刑罰・警告を受け入れつ
つキリスト者の共同体との結びつきを保つことによ
って。そして、真理に奉仕する善き風紀に関する
神の戒めを熱心にまもることです。

77 そこに伴う労苦とは何か。

答 かの書が言うとおりです（コヘレト2（以下
シラ書2の引用））。

「子よ、神奉仕の歩みに向かうなら／義のうちに立

ち、あなたの魂を試みに備えさせ／あなたの心を謙
らせよ。／そしてあなたに負わされる全ては／
これを受け止め／諸々の痛みのうちに忍べ。／
それは、あなたの命が終わりの日々において目覚め
ているためである／永遠の命にむかって／
義人らの立ち上がるとき。」

もろもろの誘惑はしかし、まずは悪魔から、その気
質に悪しき装いをほどこされたうえで現れます。こ
の世からもまた、悪しき動機が憤りを誘い、私たち
の肉からは、その壊れやすい脆弱さをとおして欲望
をかりたてられます。しかし、それに打ち克ち、終
わりまで固く留まる者は、幸いな者となります。

第八部（最終部）

洗礼について・司祭に関する問い合わせ



78 キリスト者の洗礼とは何か。

答 私たちの主なるキリストの命令です。そのため私たちは、水を注がれ、ひとつの肉にあって、父と子と聖霊の名において、受洗します。

79 何のために、君は受洗するのか。

答 悔い改めるために。

80 それは何か。

答 信によって、諸々の罪から浄められること。そしてひとつの新しい生命に、神によって変えられることです。

81 罪を浄めるものは、水か。

答 いいえ。そうではなく、イエス・キリストの血です。（エフェソ1（：7））

8 2 それでは水は何のために注がれるのか。

答 それは、ひとつの聖礼典としてふさわしいものと、私たちが勧告されたことです。その力は、水によって意味するところを示されます。

8 3 それはいずれの（聖書によって証拠づけられる）ものか。

答 聖パウロは言います。

「では、どういうことになるのか。私たちは罪の波うつな中にあって生きるべきだろうか。それに対して私たちは死んだのです。あなたがたは知らないですか。イエス・キリストにあって受洗した私たちが皆、その死にあって受洗したことを。私たちは洗礼をとおして、あの方と共に死のうちに葬られました。まさに御父の栄光によって、キリストが死者の中から復活させられたように、私たちもひとつの新しい命に生きるようになるのです」

（ローマ6（：1～4））と。

8 4 子どもらもまた、死の罪にふさわしいのか。

答 はい。というのも、私たちは皆、アダムにあって死ぬからです。また、キリストの死によって淨められるべきだからです。そ（主）の死はまた、子どもたちも義認します。

85 いかなる助けをもって、君は新しい生命に入るのか。

答 聖靈の御力によって。私たちはそれにより、内奥から受洗しなければなりません（ローマ8（：13）、使徒1（：15））。また私たちは、肉のためでも罪のためでもなく、神のために生きるのです。このことについて神は、割礼の時代に示し、モーセをとおして語られました。「心の包皮を切り捨てよ」（申命10：16）と。

86 いつこのことは成し遂げられるのか。

答 私たちが罪人たちの肢体（えだ）であるうちに、そこに、誘惑の数々がありますが、聖靈の御力によれば、それらはもはや、自らの欲望を果たそうとして、私たちの肉体を支配することではなく、むしろ私たちが、御心を果たすのです。そこにはしかし、終わりがあります。そのとき私たちは、この世的な・死せる・罪深い家である私たちのこの身を、神の秩序に基づいて、平安に至る地に委ねます。あるいは私たちが、主の日を目の当たりにするや、私たちの肉体は変貌し、主に向かい合ううちに空中に挙げられることになります（1テサ4：17）。そしてその後、清められた肉体と魂をもって、永遠の平安をうるのであります。このように、神は私たちを助けてくださいます。

アーメン。



両親ないし司牧者たちは
わかものたちに告げなさい：

神がすべてに恵みと慈しみをもって、あなた方に御手を伸ばしたまいて、神の御子、愛する我らが主イエス・キリストの認識と、神の靈の御力とを、与えてくださいますように。主に讃美と感謝、栄えと力と富とが、常に、またとこしえに、ありますように。アーメン。

平安のうちに行きなさい。そして互いのために、神に願い祈りなさい。



クリストーフェル・フロシャウアーにより
チューリヒにて印刷
1527年

